

一般財団法人 山岡記念財団

# 第4回 科学技術講演会

## 持続可能な社会に向けた食と農業のありかた



### 地球温暖化が植物に与える影響



Rudolf Diesel 1858-1913

Nagokichi Yamaoka 1888-1963

— テクノロジーで、新しい豊かさへ。 —

学生：無料  
一般：500円  
(定員：250名)

日英  
同時通訳

#### 植物科学で地球温暖化に挑む

～持続可能な食料生産を目指して～

**藤田 泰成** 主任研究員、教授

Yasunari Fujita, Ph.D.

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター  
生物資源・利用領域 主任研究員  
国立大学法人 筑波大学 生命環境系 教授 (連携大学院)



#### 気候変動に直面する ドイツのブドウ栽培

**クリスティアン・ツェルプ** 教授

Prof. Dr. Christian Zörb

栽培作物研究所 常任理事  
ホーヘンハイム大学  
植物性作物及びブドウ栽培品質講座 教授



## 2020年 3月19日(木)

14:00～18:00 ▶ 講演会 14:00～16:00  
▶ 総合討論 16:00～17:00  
(受付時間13:30) ▶ 交流会 17:00～18:00

講演終了後ホワイエにて参加者の交流会

京都大学国際科学イノベーション棟 (西館5Fシンポジウムホール)

#### お申し込み方法

山岡記念財団ホームページよりお申し込みください。

<https://yamaoka-memorial.or.jp>

ネットでお申し込みの方は、13:15より優先入場して頂けます。申し込み締め切り：2020年3月18日12:00迄。



主催 一般財団法人 山岡記念財団 〒530-0014 大阪市北区鶴野町 1-9 梅田ゲートタワー 18F

Tel:06-7636-0219 Fax:06-7636-0212  
E-mail:yamaoka-memorial@yanmar.com

共催 京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

京都大学  
農学研究所・農学部

後援

ドイツと日本  
Zukunft gestalten  
ともに未来へ  
ドイツ連邦共和国総領事館

GOETHE  
INSTITUT  
ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

一般社団法人 大阪日独協会

YANMAR



## 講演会の目的

本科学技術講演会では、2015年9月に国連で採択された持続可能な開発のための目標(SDGs)達成にむけた17の課題から、地球温暖化防止に関係が深い「再生可能エネルギー」をテーマとして、3回にわたり日独有識者を招いて講演会を行ってきた。本年度からは、持続可能な開発目標としても重要な「食」さらには「農業」のありかたについて、3回シリーズで講演会を行う。第1回目の今年は、地球温暖化が植物に与える影響をテーマとし、日独有識者による基調講演を行ったのち、パネルディスカッションや交流会を通じて、地球規模のテーマである持続可能な食・農業のありかたについて、将来を担う若者たちを中心に活発な意見交換がなされることを期待する。

Introduction

## 講演者紹介



## 藤田 泰成 主任研究員、教授

国立研究開発法人  
国際農林水産業研究センター 生物資源・利用領域 主任研究員  
国立大学法人 筑波大学 生命環境系 教授 (連携大学院)

- 1998年 京都大学博士(農学)号取得  
日本学術振興会 特別研究員  
米国カリフォルニア大学バークレー校 研究員
- 2000年 国際農林水産業研究センター 博士研究員
- 2006年 国際農林水産業研究センター生物資源領域 主任研究員
- 2010年 筑波大学大学院生命環境科学研究科 准教授(連携大学院)
- 2011年- 国際農林水産業研究センター生物資源・利用領域 主任研究員
- 2012年 筑波大学生命環境系 准教授(連携大学院)
- 2018年- 筑波大学生命環境系 教授(連携大学院)

## 受賞歴など

高被引用論文著者 2014年~2016年(トムソン・ロイター社)、  
高被引用論文著者 2017年~2019年(クラリベイト・アナリティクス社)に6年連続で選出

## 講演要旨

近年、地球温暖化の影響で極端気象が頻発しており、干ばつや砂漠化、塩類集積などにより農地が失われ、持続可能な食料生産が危ぶまれています。多様な生態系や生存に必要な環境を守りながら、今世紀中に到達が予測されている100億人の食を賄っていくためには、持続可能で頑健な食料生産システムの開発が必要です。本講演では、先端の植物科学をベースにした分野横断的な地球温暖化への取り組みの最前線を報告します。



## クリスティアン・ツェルプ 教授

栽培作物研究所 常任理事  
ホーエンハイム大学  
植物性作物及びブドウ栽培品質講座 教授

- 1998年 ギーゼン ユストゥス・リービヒ大学生物学部にて理学博士号取得
- 1999年-2007年 英国・米国・ドイツを始めとする複数の研究所で博士研究員を経験
- ギーゼン ユストゥス・リービヒ大学にて植物栄養学教授資格取得
- 2005年-2007年 デトモルト 連邦栄養・食品公社研究員
- 2007年-2012年 キール大学 植物栄養及び土壌科学研究所研究員
- 2012年-2013年 英国ブライトン サセックス大学 生物学研究科 上席科学研究員
- 2012年-2014年 ライプツィヒ大学 生物学研究所 一般・応用植物学教授
- 2014年- ホーエンハイム大学 植物性作物及びブドウ栽培品質講座教授

## 研究分野

栽培作物、ブドウ栽培、気候変動、品質状況、植物栄養

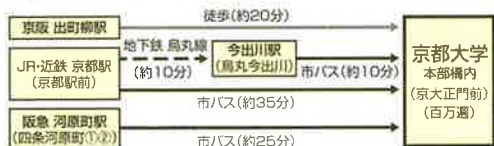
## 講演要旨

ドイツではおよそ2000年に亘ってブドウが栽培されてきました。現在、気候変動がブドウ栽培にも影を落とそうとしています。温暖化によってブドウの実の成熟時期が早まり、収穫時期がズレることから、それぞれのワインに固有のスタイルや香りが失われる可能性が出てきました。ブドウの木にダメージを与える昆虫や菌類も増えています。このような問題に対応し、ドイツのブドウ品種の多様性を未来に残すためのアプローチが求められています。

## 一般財団法人 山岡記念財団 とは

ヤンマー創業者山岡孫吉は、ドイツ、ルドルフ・ディーゼル博士が発明したディーゼルエンジンの小型実用化に成功し世界中にディーゼルエンジンを普及させました。そのため、創業以来ヤンマーグループは、ドイツの技術・文化への感謝の気持ちを現在も変わることなく継続しております。この感謝の念にもとづき、日本及びドイツ両国の文化交流を行い、社会の持続的な発展のために寄与することを目的としています。

## 交通アクセス



## ●市バス 系統および経路

乗車バス停	系統	経路	下車バス停
京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	京大正門前
	17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	百万遍
烏丸今出川	201系統	「百万遍 祇園」行	京大正門前
	203系統	「今出川通 銀閣寺道・錦林車庫」行	百万遍
四条河原町①	201系統	「祇園 百万遍」行	京大正門前
	31系統	「東山通 高野・岩倉」行	京大正門前
四条河原町②	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	百万遍
	17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	百万遍

